

事例12

< 事例概要 >

①30 歳代、妊娠中の血糖検査に問題がなく妊娠 31 週で死産した有床診療所入院患者。

②嘔吐・過換気の原因検索目的の検査。

③衛生検査所からK 7.5 MEQ/L の他、複数の異常値を含む検査結果がFAX で届いた（血糖検査のオーダーはなかった）。FAX にはパニック値を示す表示はなかった。助産師は患者の症状からHELLP症候群の発症を想定し、多くの異常値の中から血算、肝機能、炎症反応のみ帰宅した医師へ電話報告した。医師は、症状緩和の薬剤投与と経過観察を指示していたが、患者は不穏状態から心停止となり救急搬送された。

④搬送先到着約 40 分後（パニック値検出より約7 時間半後）に死亡。

⑤死因は、劇症1 型糖尿病によるケトアシドーシス。死亡時画像診断（Ai）有、解剖有。